

2018 年度入学式 式 辞

櫻の花が咲く頃となり、新潟にも春が訪れて参りました。本日この良き日に、ご来賓、教職員の皆様のご臨席のもとに、事業創造大学院大学の入学式を挙げてまいりますことは、この上ない喜びです。本日、本科生 58 名という多くの大学院生をお迎えすることができました。日本人 22 名、留学生 36 名です。その他に日本人 2 名の科目等履修生がおります。留学生の国籍別には、中国から 15 名、ベトナムから 13 名、カンボジアから 4 名、モンゴルから 2 名、カザフスタンから 1 名、インドネシアから 1 名です。

大学院に入学されおめでとうございます。大学を代表して、皆様のご入学を心から歓迎いたします。これから、皆様の夢に向かって、スタートして下さい。私たちも全面的に応援させていただきます。

特に、留学生の皆さんに、一言申し上げます。遠く母国を離れて異国の地での生活ですので、健康に特に注意して生活してください。日本は四季（四つの季節）すなわち春、夏、秋、冬がはっきりしています。春には花が咲き、夏は暑く、秋には紅葉、冬は寒く雪も降ります。季節によって気温も変わり、衣服も変えなけ

ればならないので面倒な時もありますが、慣れるとむしろ変化を楽しむ気持ちになれます。夏休みなどでは新潟県内外を旅行して、楽しむのもよいでしょう。また、日本人のお友達を作り、日本人の考え方を学んでください。日本人は、その性格を例えてクルミだとよくいわれることがあります。クルミは、外側は固いですが、中は柔らかいです。日本人と交流するとき、最初は固くて親しくなることが面倒で、親しくなるのに時間がかかります。しかし、一旦親しくなると、本当に親しくなれます。沢山の日本人の友人、知人をつくり、将来、母国と日本との懸け橋になってください。

さて、本大学院大学は、2006年4月に開学し、今年で13年目を迎えています。直面する課題を広く認識するとともに、来たるべき時代の潮流を把握しつつ創造的な経済・産業活動に取り組む人材の育成、すなわち日本経済だけでなく、グローバル経済の相互発展に貢献する事業や、企業を独立して、または組織内で創造し、経営する人材を育成することを目的として設立されました。本学はそのために、「研究に基づいた実践、実践に基づいた研究」を理念に掲げ、事業を創造し発展させるにふさわしい高い能力と見識と専門性を備えた人材育成を目指しています。

ここで、皆さんの入学に際して、三つのことを述べさせていただきます、お祝いの言葉としたいと思います。

まず一つ目です。

本大学院大学では教育の質の保証が担保できるように教育環境が整えられています。五月女副学長から説明があったかと思いますが、カリキュラムでは基礎科目と発展科目、演習科目に分類されています。その他、大学院大学の教育にスムーズに入れるように入門の導入科目も用意されています。基礎科目は、学問として体系化されたいわゆる、短期間では変わらない普遍性の部分を内容として、最重要視し、演習を伴いながら基礎から発展へと進むようになっていきます。一方で、具体的な実践も学ぶことが事業創造の能力を高めるには必須です。本学では、第一線の経営者の方々にも客員教授、非常勤教員として加わっていただき、そこから実際の具体性を持った体験を学ぶことができます。また、さまざまな事業を創造して実践していくことが、地域、日本そして世界の社会に変化をもたらし、活性化を生み、現在抱えている困難に立ち向かうことになります。このような、新規事業を創出していくには、専門的知識に加えて、精神力、行動力、コミュニケーション能力、論理的思考力、抽象化能力なども必要で、これらの能力も養成する必要があります。最近の研究で、困難な課題に取り組むためには多様性のあるチームの存在が重要ということが分かってきました。多様性のあるチームとは、国籍、人種、年齢、性別、専門などが異なるさまざまな人々から構成され、ある目的のために協力して行動するグループです。この多様性ある人材の活用をダイバーシティと呼んでいます。本学はこのダイバーシティの環境を有してお

り、教育環境として大変良いと思います。そうした多様な人々が対等に関わりあいながら一体化している状態をインクルージョンと言います。チーム内のそれぞれの人々の特有の経験、スキルや考え方が認められ、活用される状態のことです。本大学院大学で、この経験もされると思います。そこで、一つ目に申し上げたいことは、本大学院大学のこのダイバーシティとインクルージョンの環境を有効に活用し、学習してください、ということです。

次に、二つ目です。

入学された皆さんの現在の興味の対象は、どの様なものでしょうか。金融、流通、食料、観光、文化、スポーツ、教育、技術など様々でしょう。最近ではIoT（モノのインターネット）、ビッグデータ、AI（人工知能）、セキュリティ、量子コンピューター、ブロックチェーンなどの言葉が毎日のように新聞の経済・産業関係の部分に載っています。この言葉は、いずれも理系系（理系）に関係した技術すなわちテクノロジーの分野とっておられると思います。皆さんの中には、自分は人文社会系（文系）で、理系のこの様な分野は苦手と思っている人もおられるかと思えます。日本の大学での学生数の、文系と理系の比は、およそ7対3です。中国では、この比は、およそ4対6です。つまり日本では文系が多く、中国では理系が多いのです。このように国によって、文系と理系の比は異なり、アメリカ、ヨーロッパなどでは、文系と理系の区別はあまり意識されていませんし、それが重要だとも思われていませ

ん。本大学院大学に入学してきた大学院生の大部分について、自分は文系と思っている人が多く、一部に理系と思っている人もいます。先日、本大学院大学の数少ない理系をバックグラウンドに持つ大学院生 3 名と私は対談をする機会がありました。この対談を通して、理系の間がどのような考えをしているのかが分かり、また、理系の間が事業創造大学院大学で学ぶことが大変有意義であることも分かりました。この内容は、本大学院大学の広報誌 J-press にいずれ紹介されますので、読んでみてください。

時代の変化とともに、経済や産業はモノづくりだけでなくコトづくりに重心が移ってきています。モノとは、「自然界の出来事に比較的厳密な形式と比較的多くの数量を与えたときに成り立つ客観性のこと」、コトとは、「世間の出来事に比較的厳密な形式と比較的多くの数量を与えたときに成り立つ客観性のこと」を意味しています。モノは自然界の出来事なので理系に深く関係し、コトは世間の出来事なので文系に深く関係しているのかもしれませんが。技術(テクノロジー)とはこのようなモノやコトを「形式化と数量化」して、人間に分かるようにすること、つまり人間の精神に溶け込ませようとすることです。特にそれが、新規性を帯びる時、新技術は深く広く人間社会に流通することになります。この、「形式化と数量化」の作業は科学(サイエンス)を基礎としています。科学(サイエンス)は、「何らかの前提の下に、論理的な演算を施して実証可能な命題を導き、その命題を実験や統計資料によって、反証が上がらないことを確認する」ことです。簡単に

いうと、技術(テクノロジー)とは、人間の精神への科学の適用ということもできると思います。モノづくりの代表的な産業は製造産業で、コトづくりの代表的な産業はサービス産業のようなものですが、多くの産業はモノとコトが混在しています。このように、最近の経済や産業の中心であるモノ・コトづくりは、文系も理系も区別がないものとなっているのです。そこで文系の得意な人は理系を、理系が得意な人は文系をよく学んでください。

近年の、モノづくりもコトづくりも両方ともに、人間の価値へ強く働きかける必要が出てきています。この、経済や産業をつくり出す、全体のシステム、これをビジネスモデルといっても良いかもしれませんが、このシステムを創造するには、

- ①技術
- ②マネイジメント(経営)
- ③人間の価値への働きかけ

の三つの要素が必要です。この三つの要素の共通部分が「デザイン」と言われている分野です。その能力を高める方法が「デザイン思考」などと呼ばれ、イノベーションを生むために最重要とされています。

本大学院大学の創立の精神である起業家精神つまりはアントレプレナーシップと上述のデザインを含むまさに事業創造の道場としての「アントレデザイン塾(仮称)」が、本学の新潟地域活性化研究所で始まろうとしています。この塾には、産業界や本学の修了生も加わります、これも是非活用してください。すなわち、二つ目に申し上げたいことは、世界の最先端の動向を

見つめた時、最近の経済・産業の構造は、文系も理系も区別がない方向に向かっており、アントレプレナーシップとデザインつまり「アントレデザイン」が重要です。この重要性を意識して、学んでくださいということです。その際、自ら考え、色々な人と議論しながら、進むことが大切です。

最後に三つ目です。

日本の大学、大学院では、昔から次の様なこと言われています。

「大学の教員は、太鼓と同じだ。強くたたくと大きな音が出て、弱くたたくと小さな音しか出さない。」

入学された学生さんは、徹底的に学習して、是非先生方に向かって、強くたたいて下さい。そうすると大きく反応してくれます。

以上、纏めますと、

(1) ダイバーシティ、インクルージョンの環境を有効に活用し、学習してください。

(2) 最近の経済・産業の構造は、文系も理系も区別がない方向に向かっており、アントレプレナーシップとデザインつまり「アントレデザイン」の重要性を意識して、学んでくださいということです。

(3) 大学の教員へ向けて、積極的に働きかける姿勢を保つことを忘れないでください。

以上、これら三つを参考に、皆さんが健康に留意しつつ、有意義な大学院生活を送られることを祈り、式

辞と致します。

2018年4月11日

事業創造大学院大学 学長
仙石正和